

多発転移を伴う進行性肉腫 2 例の治療経験

鶴田病院 泌尿器科 川畑幸嗣
臨床工学科 岡崎優作、奥田みどり、中原祥吾
原田美砂子、中村健二
外科 鶴田豊

【症例 1】77 歳男性。右骨盤骨肉腫。腸間膜播種性転移、傍大動脈リンパ節後腹膜多発転移と尿管浸潤、左重度水腎症と右軽度水腎症による腎不全で右尿管ステント留置、右肺尖部転移、右側壁表在性膀胱癌 (UC, G1, pTa)、生活習慣病複数合併。温熱 (HT) 化学療法は、H24/08/29~H28/07/14 の間に HT を 171 回、GEM600mg3 回、GEM1000mg65 回施行。39 カ月間各腫瘍は縮小傾向続けたが、H28/5 月末に傍大動脈腹腔内腫瘍増大化と十二指腸平行脚浸潤狭窄が判明。パゾパニブ開始したが消化管通過障害のため中断。十二指腸ステント留置後、胃内温度センサー留置下に HT 再開。CTC 検査と CKD 状況からパゾパニブ 1 錠を再開し、徐々に 4 錠まで増量中。【症例 2】43 歳女性。17 歳時に右大腿胞巣状軟部肉腫切除。25 歳時左肺転移 VATS、33 歳時右肺転移 VATS、35 歳時右副腎転移切除、37 歳時左肺転移 Novalis 施行。42 歳時の 2014 年 7 月肝骨多発転移、右乳房右副腎脾腹腔 LN 転移が判明。肝腎機能障害、脂質異常、貧血も合併。14 年 7~8 月右腸骨寛骨胸椎の温熱放射線療法、14 年 8 月~15 年 12 月温熱化学療法施行。GEM600mg/2W 7 回、GEM1000mg/2W 9 回、減量 DP/4W 療法 (DXR16mg, CDDP50mg) 11 回施行。Dmab120mg/4W も 22 回投与。16 年 2 月から頸椎転移 C6~Th1 神経孔狭窄と左上肢激痛合併し、オピオイドとステロイド開始。16 年 4~5 月 Novalis 22Gy 照射して疼痛軽減。16 年 6 月までに HT/W は胸腹部 81 回、右乳房 12 回実施。各転移巣は PD を継続中。CTC 検査と肝機能障害から 16/07/12 にパゾパニブ 1 錠開始。【結語】有効な GL が無い状況では、CTC 検査は治療法選択の判断根拠になると考えられた。